



ま せ み の る
間瀬 実
知立営業所 所長

知立営業所の所長を務める間瀬実さんは、1999年（平成11年）、アパレル業界からの転職で南星キャリアックス株式会社に入社されました。「営業職は自分に向かない」という思いが転職理由でしたが、縁あって結局20年もの間、営業の道を歩んできた間瀬さんの軌跡を追いました。

— 現在のお仕事について教えてください。

知立営業所全体の管理ですね。メンバーの取りまとめはもちろん、経費など事務的な処理やお客様との折衝も行います。所長になったのは6年前ですが、知立営業所には18年近く在籍しています。入社当初は瀬戸出張所にいました。

— 知立営業所に在籍する18年の中で、一番印象的だったことは何ですか？

は部下に引き継いでいったのですが、ドライバーが今度は部下に対して注文をしはじめたのです。

所長の立場になり、目線が変わったことで、私ははじめてドライバーの意見を客観的に見られるようになりました。「自分もこう思われていたのか。あの時はこうすべきだったんだな」と一気に理解できるようになりましたね。

— 現在はどのような心境で仕事をなさっているのでしょうか。

今は気持ちも環境も落ち着いているので、幸せです。後輩たちが本当にいろいろとがんばってくれているので、本当に感謝しかありませんね。

以前は自分のことだけ考えていれば良かったのですが、今は上の立場に立つことの大変さを実感しています。若い世代の気持ちを察する努力はしていますが、100パーセント

着任当初は、営業といえども配車も組んでいました。当時はできるだけドライバーの要望に応え、信用を得る動きができるように心がけていました。上手く回すことができて、お客さまから、「よくやってくれた」とお褒めの言葉や、ドライバーから感謝の言葉をもらったときは嬉しかったですね。

特に、「間瀬がいたから今も仕事を続けているよ」と何人ものドライバーに声をかけられたことは、今の私の支えになっています。

— 前職でも営業職であったと伺いましたが、その経験が活かされたのでしょうか。

実は前職を辞めた理由は、営業が苦手だったからです。元々人と話すのは得意ではなく、営業は自分には向いていないと思っていました。

南星キャリアックスのことは知人の紹介で知りました。運送業界なら人はないので、日々勉強を重ねこれからも成長していきたいと思えます。

2020年秋に新設される営業所での活躍を期待されているという間瀬さん。大きな環境の変化を迎え、自分がどこまでやれるのか、不安と期待が入り混じっているといいます。

「2020年は、新しいことに挑戦する年」だと、熱く語る間瀬さんの今後の活躍が楽しみです。



と話すことはないだろう、ドライバーか経理あたりを担当するかもしれないと考えたのです。ところが、会社の方が営業向きだと思われたのか、営業的な仕事を任されていますね。そうして気がつけば20年が過ぎていました。

正直なところ、営業に対する苦手意識は今も克服できていません。これも任務だなと思ってやっています。

— そうなのですね。長年、営業に携わってきた中でつらいときもありましたか？

人とのやりとりが得意ではないのは本当です。入社6年目くらいのときは、それを理由に辞めようと思ったこともありましたが、営業と並行してドライバーとして走る時間も長く、多忙を極めていたことに加え、ドライバーとの関係性がグクシヤクしていたのです。

「自分はこれだけやっているのに、応えてもらえない」という憤りを感じ、以前は二つ返事でやってくれていたのになぜだ、と不信感が高まっていました。

自分自身は、ドライバーの話にすっかり耳を傾けながら仕事をしている自負があったので、これ以上続けることはできないと上司に相談をしたのです。

— 思いを留めることができたのは、どうしてなのでしょうか。

タイミングが良いのか悪いのかわかりませんが、子どもができたことで、会社に残ることを選びました。そして、本社の常務と話をさせてもらい、溜め込んでいた思いをすべて吐き出しました。それから考え方がすこしずつ変わったように思います。

所長になるまで10年かかりました。その間に、私がやってきた仕事